

防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業成果報告書

学校名：岩手県立岩手県立不来方高等学校

I 事業の概要（地域の実情含む）

- (1) 所在地域の災害リスク対応
- (2) 社会的環境の特性対応
- (3) 災害ボランティア活動

II 取組の概要

- (1) 所在地域の災害リスク対応
 - ア 火災避難訓練
 - ・プリントによる事前学習
 - ・予告無し避難訓練の実施
 - ・無公害発煙等を用いて出火場所の疑似演出
 - ・消防署員による分析指導
 - イ 地震避難訓練
 - ・災害時を想定、通行不能箇所を設置した訓練
 - ・防犯アドバイザーによる生徒向けへの講演
 - ・防犯アドバイザーによる教員への指導
- (2) 社会的環境の特性対応
 - ア 帰宅困難時の安全教育
 - ・矢巾町防災課職員を招聘し、所在地のハザードマップを用いての事例指導（緊急連絡、帰宅困難時の指導含む）
 - イ 体育館滞留予行
 - ・防災マットの設置及び滞留体験
 - ・防災シートを用いての滞留体験
 - ウ あるもの炊き出し体験
 - ・カセットコンロを用いての炊飯
 - ・食材、調味料を限定して用意し、レシピ無しで調理
- (3) 災害ボランティア活動
 - ア 山田町仮設住宅ボランティア
 - ・生徒体験型交流（お茶・書道・染め物・絵本読み聞かせ・ちぎり絵）
 - ・本校音楽部と『コーラス泉の会』との交流合唱

III 取組の成果と課題

- (1) 成果
 - ①避難訓練では、職員に対して厳しい目が向けられた。アドバイザーによる職員研修で、更に防災意識が高まり生徒を守る資質が育った。また、マニュアル化されない臨機応変な対応力が育成された。
 - ②帰宅困難時の安全教育では、本町防災課職員を講師として招聘した。本校所在地である矢巾町も水害に襲われており、防災マップを生徒に配布し、災害は身近で起こらないと考えている生徒に危機管理の大切さを示すことができた。また、帰宅困難時の家族との連絡方法と、岩手県が締結した「帰宅困難者の支援に関する協定」企業を紹介していただき、社会的な取り組みを教示された。
 - ③防災マット体験では、協力しながら知恵を出し合い、短時間で組み立てることを体験した。また、防災シートも体験し、保温力の高さを体感することができた。
 - ④山田町への体験型交流では、文化交流を主とし、生徒にとっても、地域の方々にとっても笑顔の溢れる交流になった。
 - ⑤あるもの炊き出しでは、カセットコンロのガス装着が初体験の生徒もいた。また食材を限定し、レシピ無しの調理を課した。調理経験の乏しい生徒が多く、試行錯誤しながら行った。臨機応変に対応する力などを養うことができた。
- (2) 課題

震災や災害を経て、様々な事例や対策を教示される機会が多い。対策やノウハウをしっかりと自分のこととして捉えられることはもちろんであるが、災害時に教示されたことを実践できる人材の育成が大切である。また、職員・生徒共に、マニュアル化を拠り所に行っているが、実際の災害時は、臨機応変に対応する力が必ず求められる。特に生徒は、創意工夫や創造力が乏しいと感じられるため、制約型の訓練を更に積むことにより、災害時に対応できる資質や能力を育むことができると考える。

防災マット・防災シート体験



↑
防災マット敷き体験の様子→

防災シート体験 ↓



あるもの炊き出し体験（非常時の食事づくり）



非常時の食事づくり ルール 1



非常時の食事づくり ルール 2



実習の様子 1（カセットコンロ炊飯）



実習の様子 2